

矢板市立放課後児童クラブ（学童保育）満足度調査について

【目的】

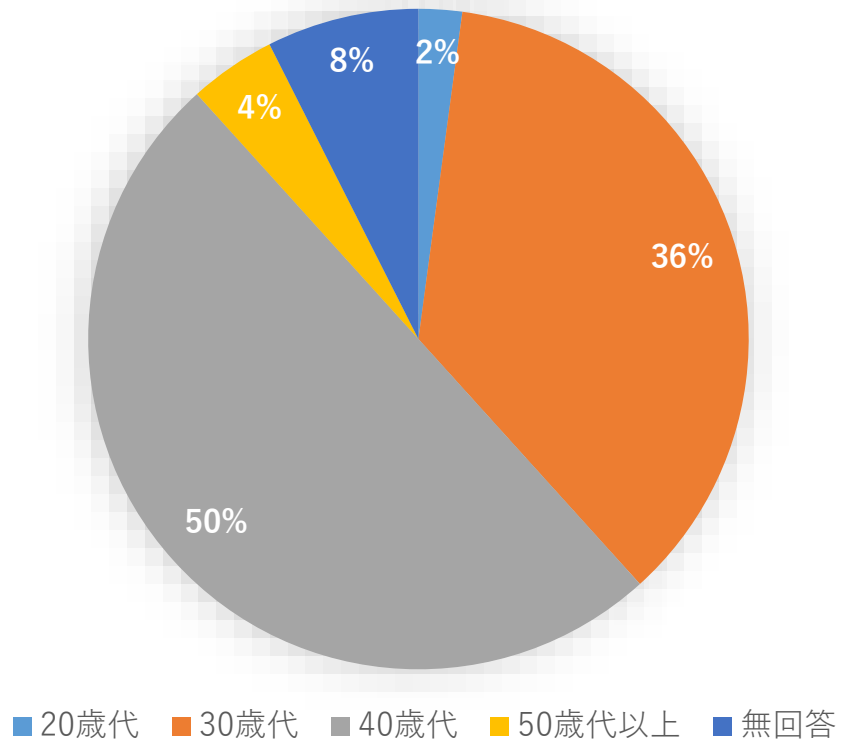
- 学童利用者（保護者・こども）に対し学童の利用状況や満足度等の意識調査を行い、市が実施する放課後児童クラブ運営に対する評価を実施するとともに改善を図る。

【調査概要】

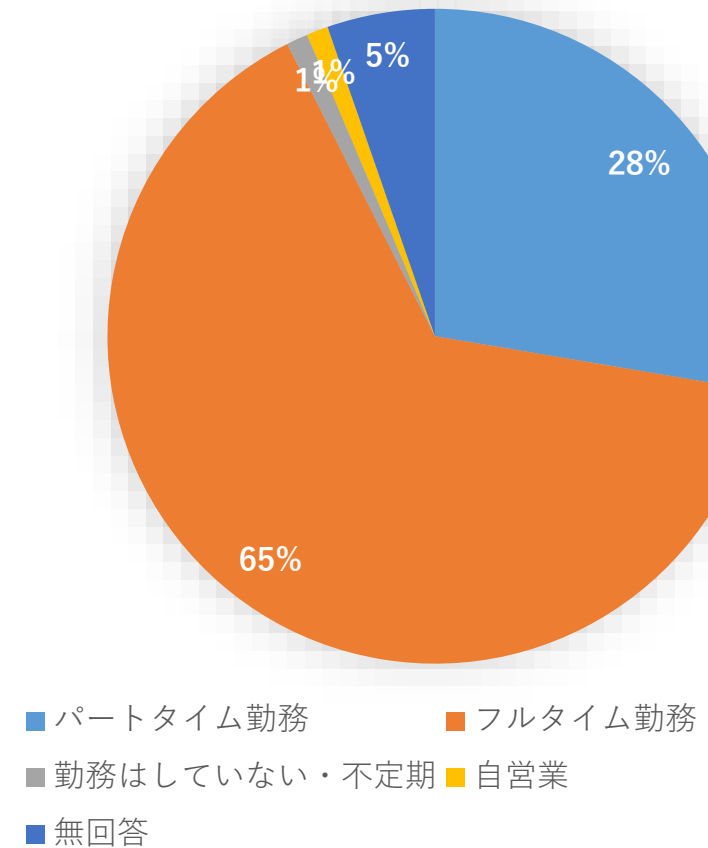
- 調査方法 : W e b フォーム形式による匿名回答により収集
- 調査期間 : 令和 7 年 4 月 30 日～ 5 月 20 日
- 調査対象者 : 学童利用登録者（209名）およびその保護者
- 回答 : こども（67名）、保護者（94名）より回答

回答者サンプル構成（保護者）

保護者の年齢層（N=94）



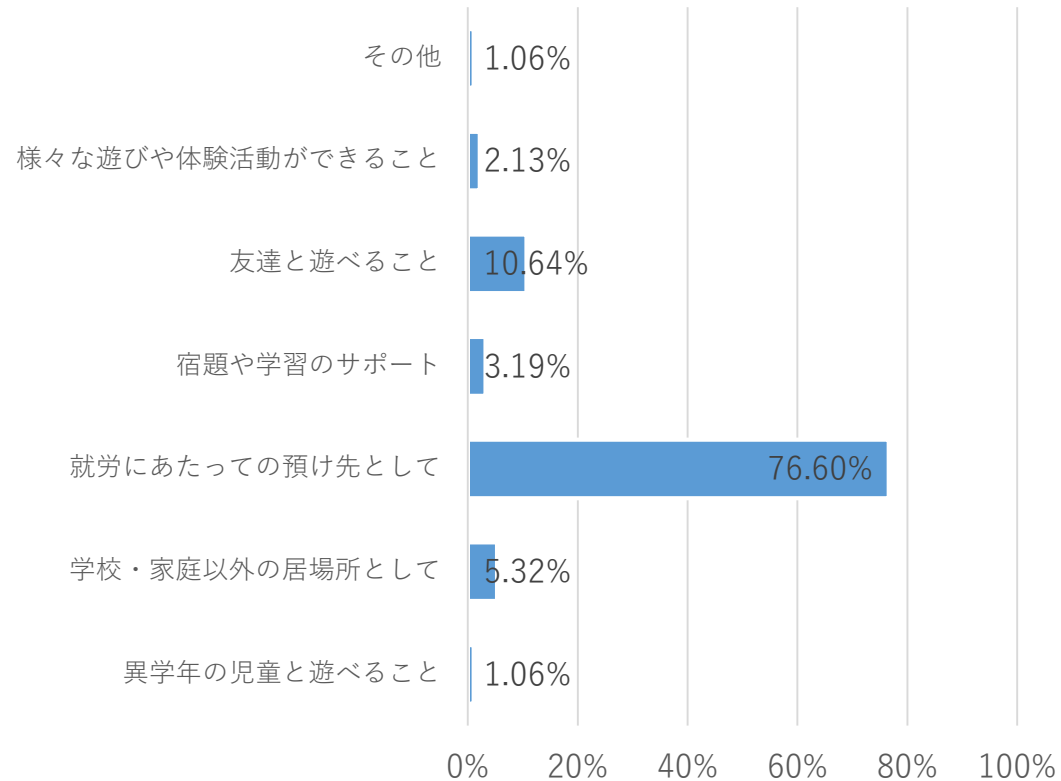
保護者の勤務状況（N=94）



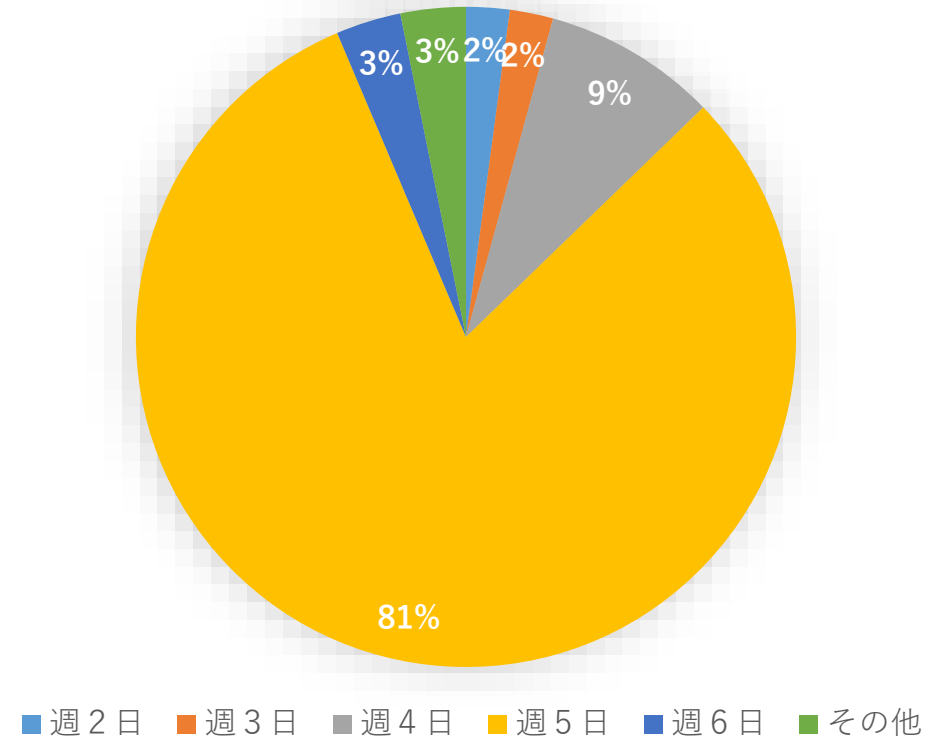
回答者サンプル構成（保護者）

保護者の就労により学童を利用しているこどもで占められ、週5日以上利用している状況。

入所に当たって学童に期待したこと（N=94）



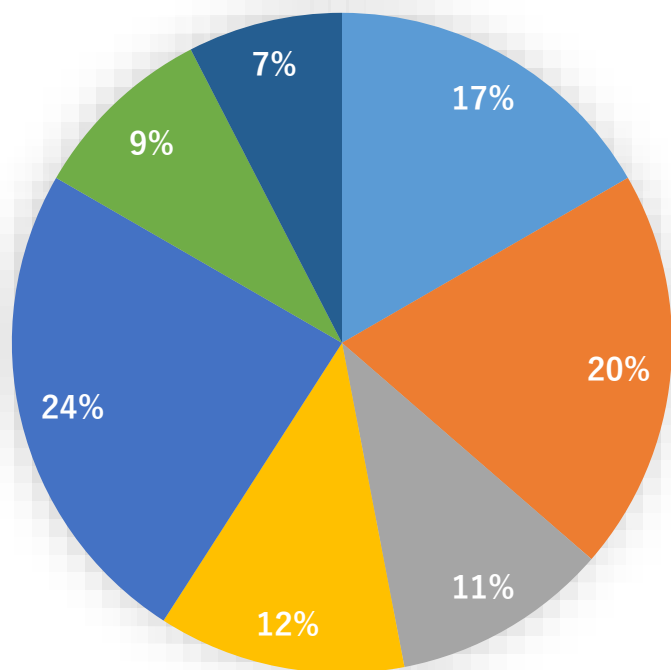
児童の通所頻度（N=94）



回答者サンプル構成（児童）

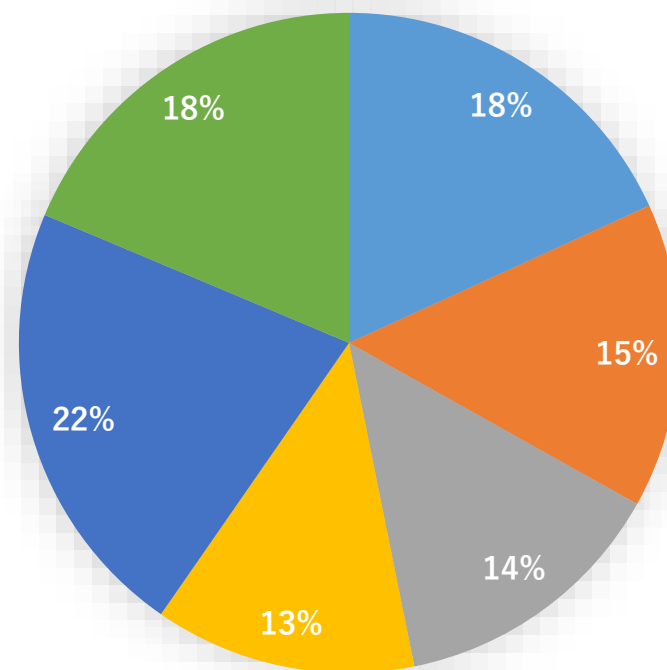
回答者は5年生がやや多いものの、利用者全体に占める回答率は概ね15%～20%であり、バラツキは少ないと判断でき、学年による回答内容の偏りは大きくないと考えられる。

回答者の学年（N=67）



■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生 ■ 4年生 ■ 5年生 ■ 6年生 ■ 無回答

学年別回答率（N=67）

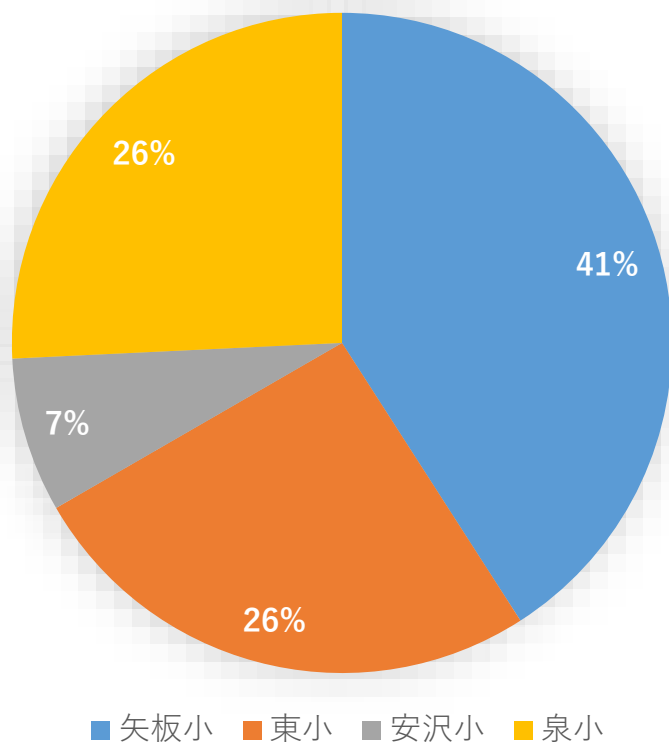


■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生 ■ 4年生 ■ 5年生 ■ 6年生

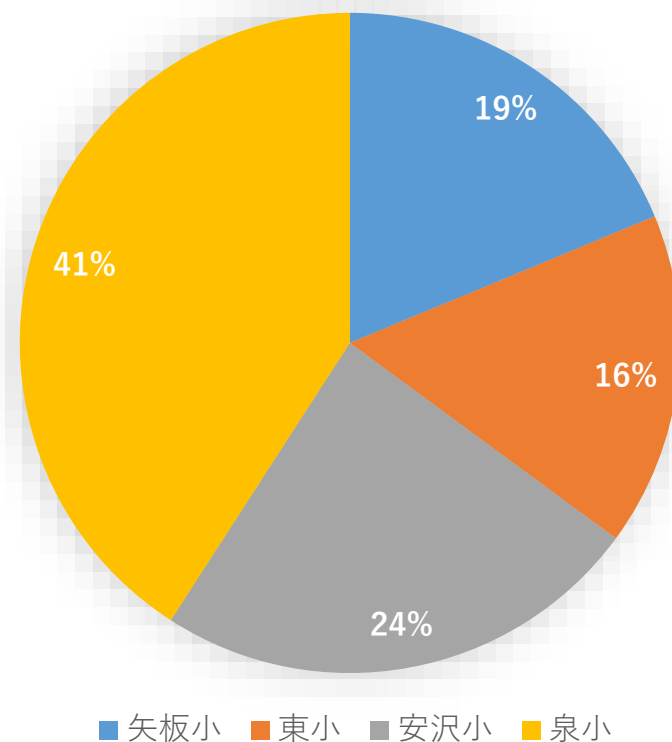
回答者サンプル構成（児童・学童別回答率）

回答した児童の通所先別回答率は泉小学童が高いが、その他は20%程度が回答している状況となった。泉小学童の通所人数は矢板小・東小より少ないため、回答の偏りは少ないと評価できる。

通所先（N=67）



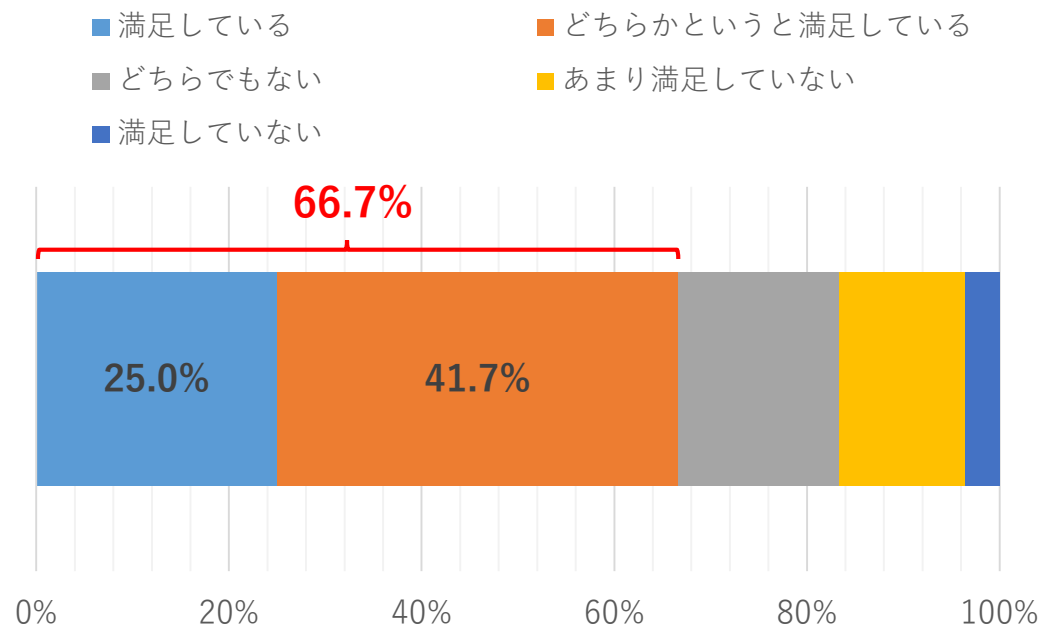
通所先別回答率（N=67）



総合的満足度について

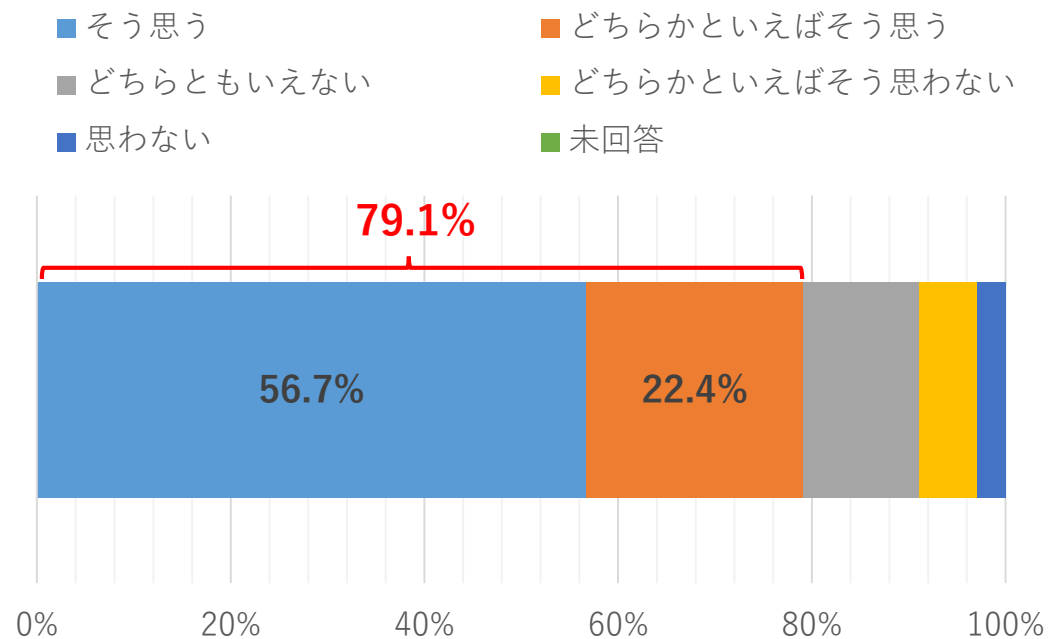
学童に対する満足度を聞いた設問では、保護者に対しよりこどもの方がより満足度が高いと考えている状況となっていた。「満足している・どちらかといえば満足」という好意的な評価の回答はそれぞれ「66.7%」、「79.1%」と高い傾向になった。

総合的満足度（保護者、N=84）



※全体回答数94件中、10件についてはデータ欠損により未回答

学童は楽しいですか？（こども、N=67）



よい評価をいただいたご意見

保護者

- 学校とは異なり、学童の先生は悪い事は叱り、良い点は報告してくれるなど、自分の子供がどんな人間なのかを知ることができました。
- 新しい友達ができ喜んで行っています。
- 熱心な指導をしてくださっています。

こども

- いろんな遊びができるから
- 違うクラスの友達と遊べるから
- 外遊びが長かったり、遊ぶものがあるって楽しい。
- 好きな友達が沢山居るからです！
- 友達といっぱい遊べる楽しく勉強できる
- 友達がいるため、安心できる

改善が必要な点やご指摘に関するご意見

保護者

- 運動が足りないのではと感じている
- 宿題を優先させて欲しい
- 先生も女性しか居ないため、不審者対策をしっかりとって欲しい
- お弁当の注文等ができれば嬉しい
- 長期休暇時等は、費用が多少かかっても体験活動を充実させて欲しい
- 先生に暴言を言う児童もいるため、学校等ともしっかり連携を図って欲しい

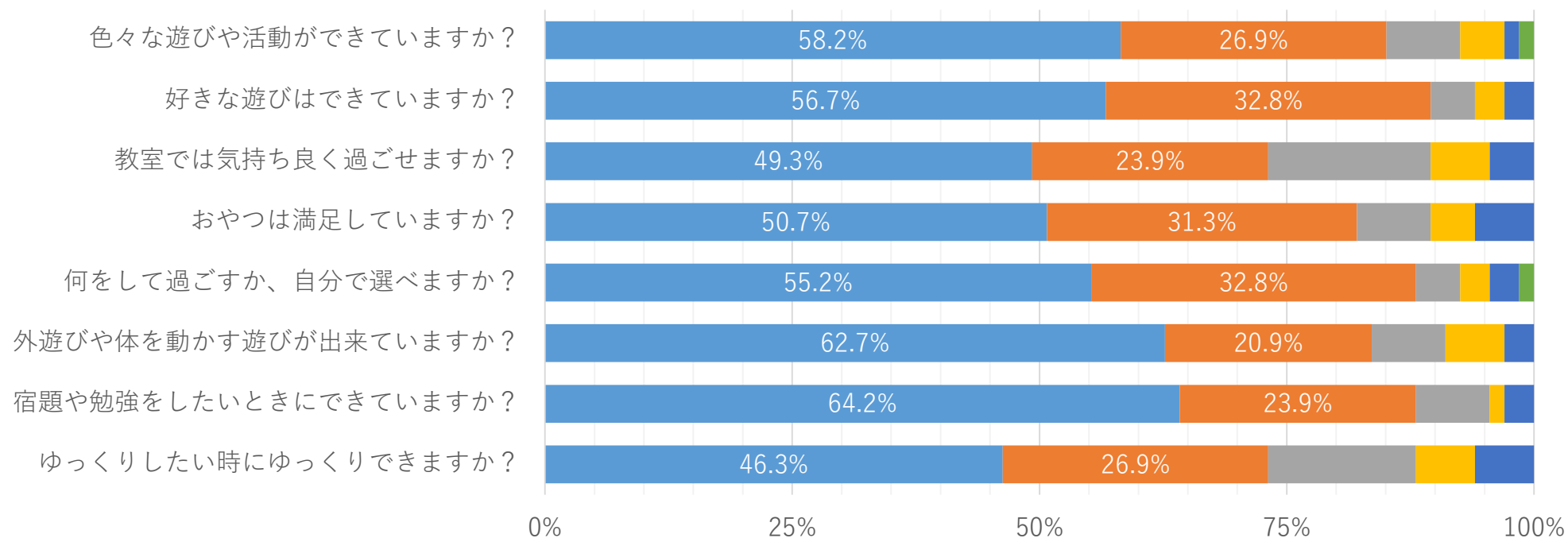
子ども

- 外で遊ぶ時だけ楽しい。時々無視される。
- 友達がいるけど、早く家に帰りたいという気持ちがある。
- 周りがうるさいから。
- 低学年がうるさい。
- 先生が厳しすぎる

環境・活動面についてのこどもの評価は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と全ての項目で70%以上がポジティブな回答をした。「そう思う」が50%を割り込んだ設問は「教室で気持ち良く過ごせるか」「ゆっくりしたい時にできるか」という設問だった。

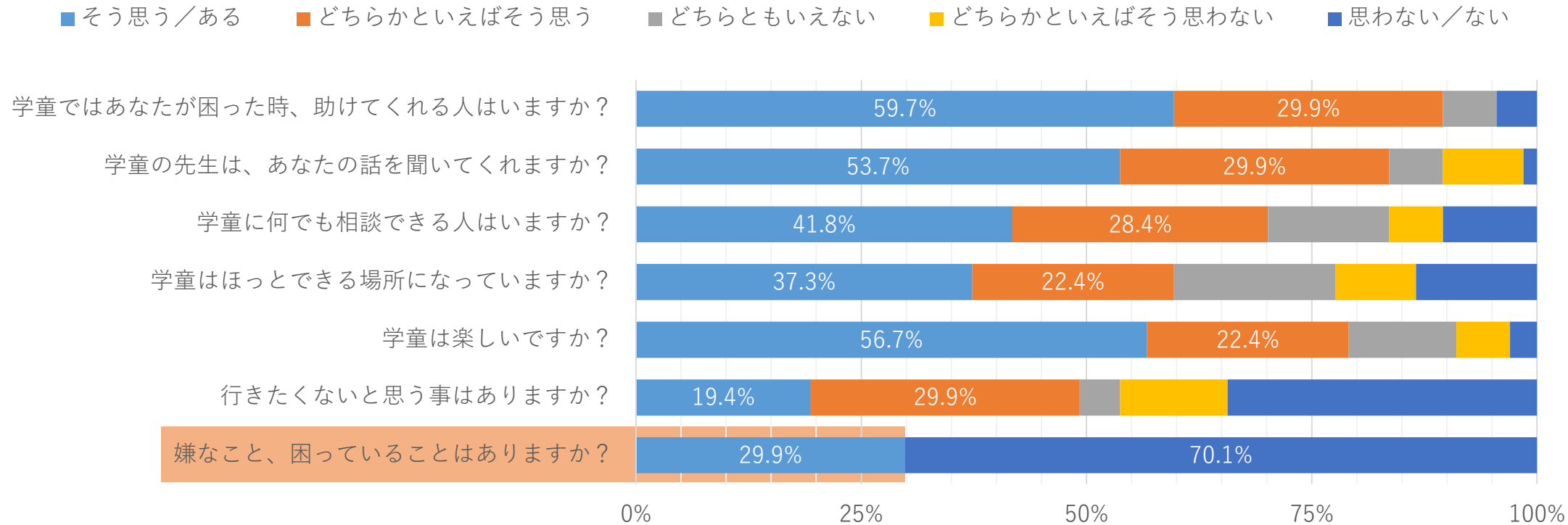
【こども】環境・活動面に対する評価（N＝67）

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない ■ どちらかといえばそうおもわない ■ おもわない ■ 無回答



関わり・気持ちの面についてのこどもの評価は、人（友人・職員）との関わりの面ではポジティブな回答の割合が高い。一方で、約50%が行きたくないと感じた経験があると回答した。また、約30%が学童で困っていることがあると回答している。

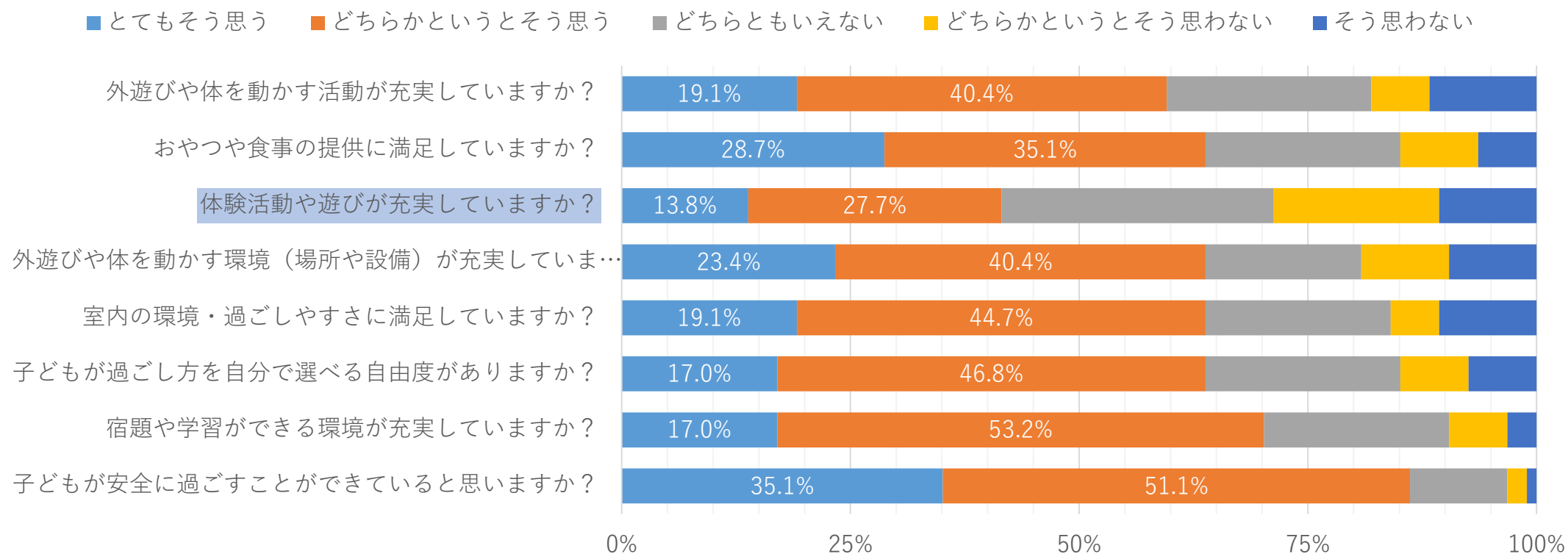
【こども】 関わり・気持ちの面に対する評価（N=67）



環境・活動面についての保護者の評価では、多くの設問でポジティブな評価だが、多様な体験活動や遊びの面については50%以下となり、保護者のニーズが高いことがうかがえる。

一方、就労にあたっての預け先として、安全に過ごせているという面では高評価だった。

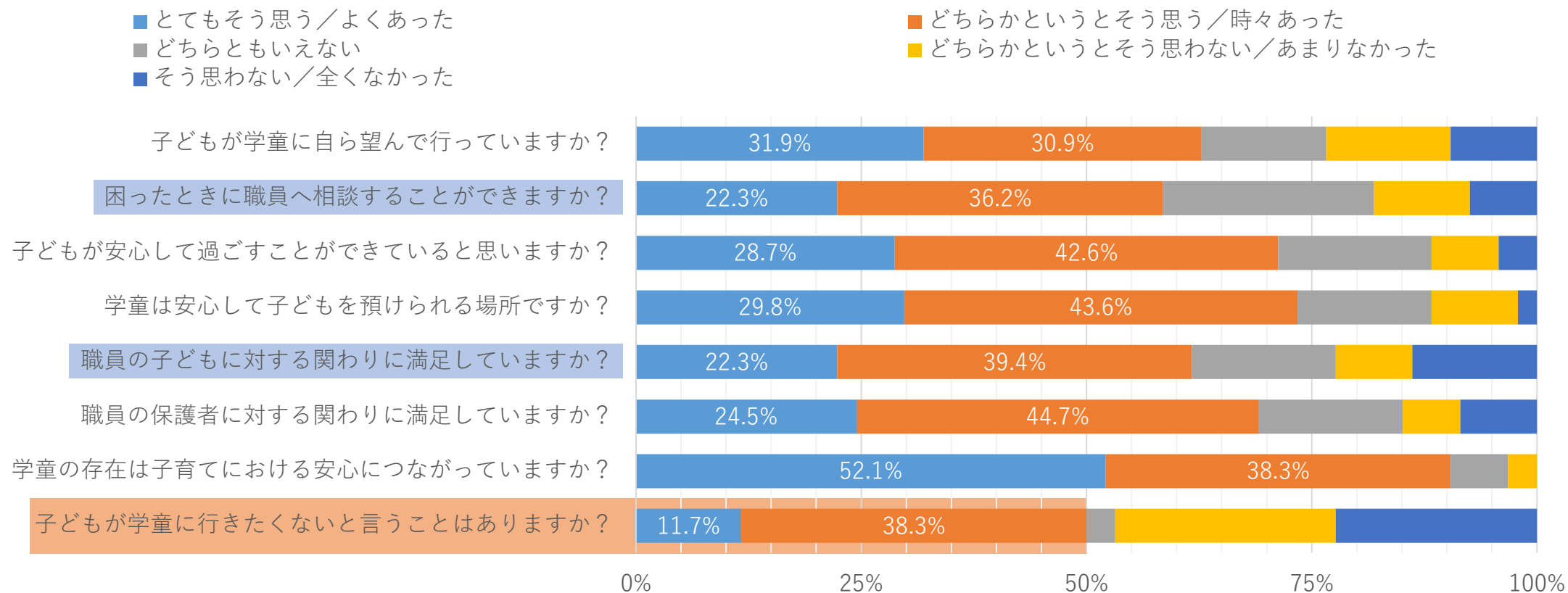
【保護者】環境・活動面に対する評価（N=94）



関わり・気持ちの面についての保護者の評価は、多くの設問でポジティブな回答を得たが、職員と利用者（こども・保護者）間でのコミュニケーションに関する設問への評価はやや低かった。

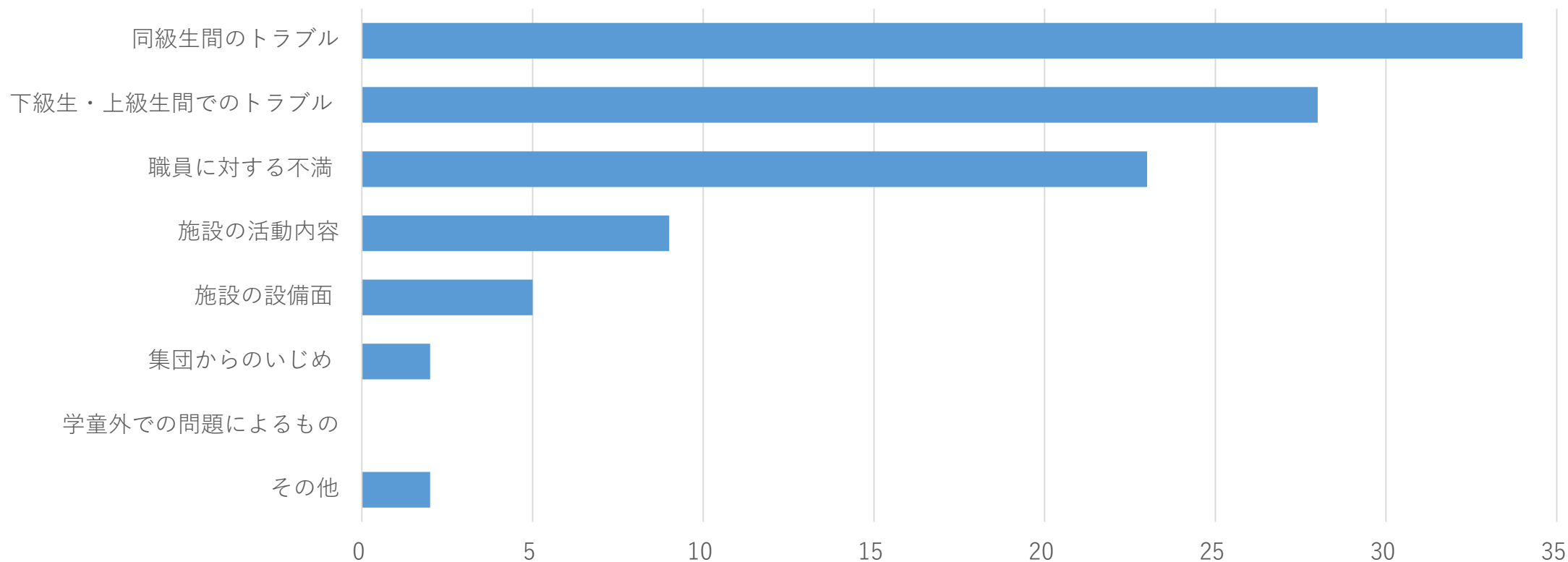
一方で、50%のこどもが学童へ行きたくないと言ったことがあると回答した。

【保護者】関わり・気持ちの面に対する評価（N=94）



こどもが学童へ行きたくないと言った理由としては、こども間のトラブルによるものが最も多く選択された。一方、職員の指導に対する不満を訴えた例も選択されており、職員の関わり方や指導意図の伝わり方に改善の余地がある状況となった。

【保護者】こどもが学童に行きたくないと言った理由（3つまで選択、総選択数＝103）



こどもの声（行きたくない理由・嫌なことの内容）

低学年（1～3年生）

- 友達がやりたくないことに誘ってくる
- いじわるしてくる人がいる
- 怖い上級生がいる
- 1人でいたい時がある
- 先生の注意の仕方が少し怖いから
- 先生に他の子のことを訴えても改善されない
- 自分が悪くないのに注意された

高学年（4～6年生）

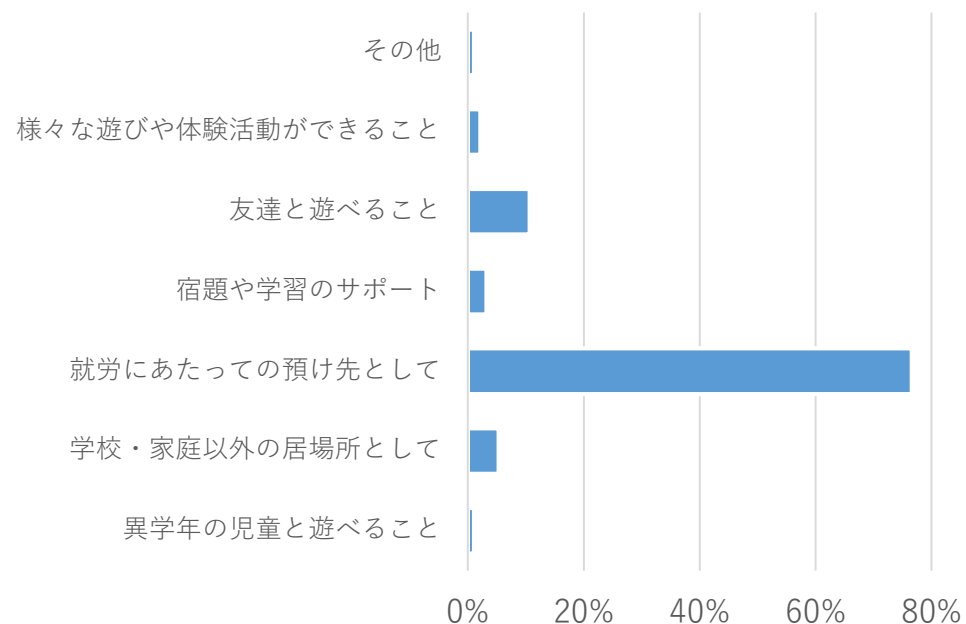
- 低学年の子がうるさくて勉強に集中できない
- 同級生が休みの時
- なんとなく
- 友人関係
- 面倒くさい
- 家で過ごしたい・帰りたいから
- 先生が厳しい

保護者の回答より

学童は保護者の就労にあたっての預け先としての期待を最も寄せられており、その点において、こどもを安心・安全に過ごすことができる場所としては高く評価されていることが分かる。また、こども同士のトラブルを中心に起因する問題はあるものの、概ねこどもは自ら望んで通っている状況も推察できる結果となった。

一方、保護者は体験活動の充実度を低く評価しており、より充実させることが求められている。

入所に当たって学童に期待したこと（N=94）



満足度指標（抜粋）

